

## 令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「自分の命は自分で守る」

山形県 山形大学附属小学校 5年 佐藤 綾芽

「あ！法枠工あった！」以前、私と妹は、親子砂防教室に参加して、土砂災害の種類や対策を学びました。それ以来、車で出かける度に、私と妹は法枠工や砂防えん堤探しをしています。それによって気づいたことは、至るところで法枠工が見られるということです。見つけた時はうれしくなりますが、考えてみると、がけ崩れの危険箇所の多さに少し怖くなります。逆に、砂防えん堤はなかなか見つけることができません。「土石流が起こりやすいところは、あまりないのかなあ。」と私が言うと、お父さんは、「もしかしたら、普段はあまり行かない山の中とかに、あるのかもしれないね。」と言いました。砂防えん堤は、どんな形で、どのくらいの大きさなのだろう。どんな場所に設置されているのかな。どうしても見てみたい。そう思っていたある日のこと。「砂防えん堤、あったよ！」お父さんが砂防えん堤を見つけてきてくれたのです。週末、さっそく家族で砂防えん堤を見に行きました。砂防えん堤は、思ったより大きくて、近づくと、コンクリートの壁が天にそびえ立っているように感じました。壁の上部の中央は少し低くなっていて、壁の中央には、穴が二つ開いています。「土石流の岩や木をせき止めて、水はあその穴から流れるようになっているのかな。」と、お母さんが言いました。そして、その穴には、水が流れたあとがしっかりと残っています。「実際に土石流をせき止めたことがあるのだな」と気づき、私は怖くなりました。

ところで、テレビで災害のニュースが出ると、私のおばあさんは、いつも、「山形は、災害があまり多くないわよね。」と、言います。本当に山形は災害が少ないのか、私は図書館で調べてみました。平成28年から令和2年の都道府県別自然災害被害状況のデータで、り災者数を見てみると、ほとんどの年は、山形県の被害はすごく少ないことが分かりました。ですが、令和2年は、全国約1万9千人のり災者数の内、山形県は542人で、全国4位でした（参考「日本の統計 2023」他総務省統計局）。

令和2年に何があったのかインターネットで調べてみると、ごう雨で最上川が氾らんした年だということが分かりました。川があふれ、町が泥の海のようにになっていたのを、ニュースで見たことがあったなと思い出しました。どんな地域でも、いつ災害が起こるか分からない、自分もいつ被害にあってもおかしくないのだと、私は改めて感じました。

今回、災害について調べたり考えたりしたことをきっかけに、家族で、災害時のことについて話し合いました。大きな災害が起きた時、「自分は大丈夫」とか「ここなら平気」と油断して被害にあう人は、意外にも多くないそうです。それよりも、家族と連絡が取れなくなって心配になり、家族を探しに戻って被害にあう人が多いとのことでした。「1番大事なことは、大人も子供も、自分が助かる行動をとることだよ。」お父さんが、真けんな顔で言いました。一緒にいる時は、もちろん助け合って避難するけれど、別々の場所で災害にあった時、むやみに家族を探しに危ない所に行かずに、それぞれが、自分が助かるために避難すること。家族皆がそうすることで、結果的には皆が助かる。そうお互いを信じて行動することを家族で確認しました。

私は、実際に災害が起きた時、家族で決めたことをきちんと実践できるか、少し心配です。でも、日ごろから災害について話し合ったり、避難用品の準備をしたりして備え、いざという時に自分が助かる行動がとれるようになりたいです。そして、災害で被害に合う人がいない世の中になればいいと思います。